

2012年5月15日
化粧品動物実験を考える院内集会

資生堂の 動物実験廃止に向けた取り組み

特定非営利活動法人動物実験の廃止を求める会
(JAVA)
理事 亀倉弘美

動物実験と代替法に対する取り組み



動物実験廃止に向けた取り組み

現在、資生堂は化粧品開発において、化粧品そのものを使った動物実験を行っていません。化粧品の原料については、法規で定められている場合や、動物実験の代替法の選択肢がまったくなく、商品の安全保証上やむを得ない場合以外は動物実験を行いません。

私たち資生堂は、お客さまに安心して化粧品をお使いいただけるよう安全性を厳格に守りながら、動物愛護の観点から化粧品における「動物実験」の廃止をめざします。2011年3月には自社での動物実験を廃止しました。

今後は、動物実験廃止の取り組みに最も先進的であり2013年の廃止をめざしている欧州の法規 (EU化粧品指令)にあわせ、資生堂は動物実験の廃止を推進していきます。

2013年に想定されている廃止までの期間は、日本化粧品工業連合会や欧州代替法検証センターなど、国内外の業界団体および代替法の検証機関との連携により代替法の開発を推進し、いち早い動物実験廃止の実現に努めます。

また、有識者、学術関係者、動物愛護団体の方々との意見交換の場を持ち、動物実験廃止に向けた議論を重ねていきます。

年	代替法開発・安全性評価に貢献した研究内容
2008	・ SIRC細胞毒性試験と3次元培養真皮モデルを用いる試験の組み合わせ による眼刺激性評価法に関する研究
2005	・ in vitro皮膚感受性試験：h-CLAT(human Cell Line Activation Test) の日本における共同研究 ・ 光毒性試験代替法における光源の影響に関する研究
2003	・ 培養細胞を用いる急性毒性試験代替法に関する研究
2002	・ 経皮吸収予測式の開発と感作性ポテンシャル予測への応用に関する研究

<http://group.shiseido.co.jp/csr/challenge/experiment/>

資生堂の掲げた目標(2010年3月)

- 動物愛護の観点から化粧品における「動物実験」の廃止をめざし、**2011年3月までに自社での動物実験を廃止する**
- 今後は、動物実験廃止の取り組みに最も先進的であり**2013年の廃止をめざしている欧州の法規にあわせ、動物実験の廃止を推進する**
- 2013年までは、国内外の業界団体および代替法の検証機関との連携により、代替法の開発を推進し、いち早い動物実験廃止の実現を目指す
- 有識者、学術関係者、動物愛護団体との意見交換を行い、動物実験廃止に向けた議論を行う

これまでの主な取り組み

- | | |
|----------|--|
| 2010年3月 | 「動物実験廃止をめざす」宣言 |
| 2010年6月 | 第一回「化粧品の成分の動物実験廃止を目指す円卓会議」 |
| 2010年11月 | 第二回 円卓会議 |
| 2011年3月 | 自社の動物実験施設の閉鎖 |
| 2011年6月 | 第三回 円卓会議 |
| 2011年12月 | NPO法人サステナビリティ日本フォーラム主催『ステークホルダーエンゲージメント勉強会』にパネリストとして参加 |
| 2012年5月 | 第四回円卓会議(予定) |

化粧品の成分の 動物実験廃止を目指す円卓会議

氏名	所属・役職	1	2	3
浅野 明子	弁護士	○		○
阿南 久	全国消費者団体連絡会事務局長		○	○
板垣 宏	横浜国立大学大学院工学研究院 教授	○	○	○
亀倉 弘美	NPO法人動物実験の廃止を求める会 理事	○	○	○
河口 真理子	大和証券グループ本社 広報部 CSR担当部長		○	○
田中 憲穂	日本動物実験代替法学会 元会長	○	○	○
中野 栄子	日経BPコンサルティング プロデューサー	○	○	○
藤井 敏彦	経済産業研究所 コンサルティングフェロー		○	○
山口 千津子	社団法人 日本動物福祉協会 獣医師調査員	○		
山崎 恵子	動物との共生を考える連絡会 幹事	○	○	
吉田 武美	日本トキシコロジー学会 理事長	○		
司会 川北 秀人	IIHOE 人と組織と地球のための国際研究所 代表	○	○	○

ステークホルダーダイアログ



■ 第三回「化粧品の成分の動物実験廃止を目指す円卓会議」を開催



開催日時： 2011年6月2日（木）9：00-12：30
場所： 資生堂汐留オフィス会議室

2010年11月の第二回に引きつづき、第三回円卓会議を開催しました。ご参加いただいたのは、弁護士、消費者団体、動物実験代替法や安全性研究の専門家、市民団体、マスコミ、CSR有識者など9名のステークホルダーの皆さまです。資生堂における動物実験廃止に向けた取り組みの成果や進捗状況をはじめ、参加者それぞれの専門領域における情報やご意見を共有し、動物実験を廃止するために必要なことは何かを議論しました。

<http://group.shiseido.co.jp/csr/communication/dialog/dialog201106.html>

2011年6月までの達成・進捗状況

- ① 自社での動物実験の廃止を達成
 - 2011年3月30日 自社での動物実験終了
 - 2011年4月5日 動物実験施設の閉鎖
- ② 動物実験審議会へ第三者委員が参画
 - 医師と獣医師の計2名が参加
- ③ 実験動物使用数の推移
- ④ 代替法の公定化に向けた進展
 - 皮膚感作性と眼刺激性の2つの代替法

2011年3月の自社での動物実験の廃止

- ・2011年3月で、自社の動物実験廃止
- ・2011年4月で、自社の動物施設を閉鎖

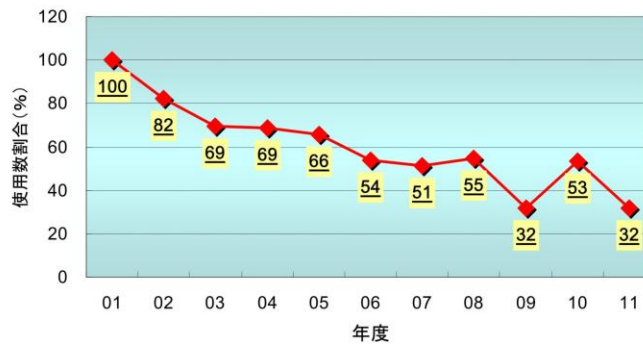
自社施設における実験終了日	2011年3月30日
自社施設における稼働停止日	2011年4月 5日*

*3月31日までに施設の稼働を停止する予定であったが、
震災の影響によりスケジュール変更を余儀なくされた

実験動物使用数の推移

2011年度を100%とした場合の相対推移

～原料の安全性確認のために～

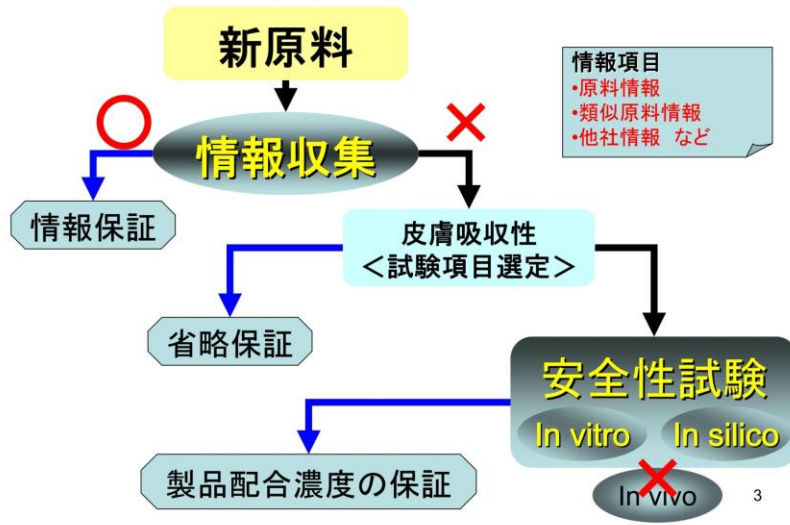


2

2011年度の主な取り組み

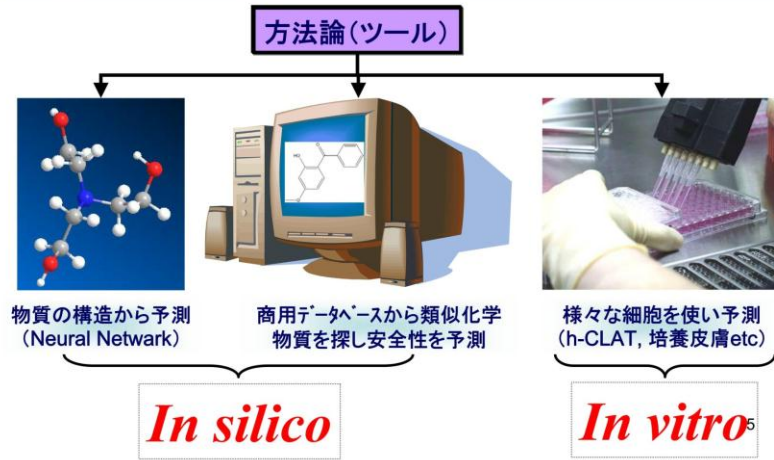
- ① 動物実験に頼らない社内の安全性保証体制
 - 2013年度から稼働できるよう代替法の検討を加速
 - 情報による保証を行い、試験が必要な場合は、In vitro (細胞を使用した試験) や In silico (既知データに基づく予測) の組み合わせによる保証体制を構築
- ② 資生堂における代替法の開発状況
 - 安全性評価で求められる11項目中、すでに5項目で社内保証できる代替法を開発済み。残る6項目についても2011年度に更なる検討を推進。
- ③ 化粧品開発の方向性

社内の安全性保証体制 (2013以降)



安全性試験にかかわる課題(資生堂の取り組み)

- 2013年を見据えAC実験に代わるさまざまな代替試験法の開発に取り組んでいる。
- 安全性試験の全てを代替法試験へ置き換えることは世界初の試み(極めて高いハードル)

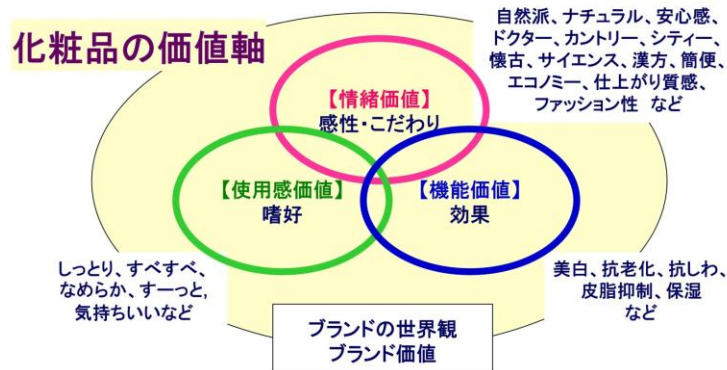


安全性試験にかかわる課題(代替法の現状)

社内保証項目	STEP1 脱AC試験法の探索	STEP2 評価系構築	STEP3 社内素材検証	STEP4 評価系見直し	STEP5 評価系確立
経皮吸収	社内保証導入済(<i>In vitro, in silico</i>)				
皮膚一次刺激性	社内保証導入済(<i>In vitro</i>)				
眼刺激性	社内保証導入済(<i>In vitro</i>)				
Ames試験	社内保証導入済(<i>In vitro</i>)				
染色体異常	社内保証導入済(<i>In vitro</i>)				
感作性	検討中(<i>In vitro, in silico</i>)			11年度検討	
光感作性	検討中(<i>In vitro, in silico</i>)		11年度検討		
単回投与毒性	検討中(<i>In vitro, in silico</i>)			11年度検討	
光毒性	検討中(<i>In vitro, in silico</i>)			11年度検討	
反復投与毒性	検討中(<i>In vitro, in silico</i>)			11年度検討	
生殖発生毒性	検討中(<i>In vitro, in silico</i>)			11年度検討	

4

今後の化粧品開発(価値開発)



6

動物実験廃止に向けた課題

- ① 代替法の開発と実用化の推進
- ② 他社への働きかけ
- ③ 行政への働きかけ
- ④ 消費者への働きかけ

資生堂の円卓会議の様態等についてはこちらをご参照ください

<http://group.shiseido.co.jp/csr/communication/dialog/>

http://usagi-o-sukue.org/s_campaign.html